

# SSKR



にじの会だより Vol.91

社会福祉法人 にじの会

理事長 石崎 優仁

〒181-0015 東京都三鷹市大沢1-6-3

TEL 0422-39-2411

FAX 0422-39-2412

ホームページ: [nijinokai.org](http://nijinokai.org)



あけましておめでとうございます



社会福祉法人にじの会理事長 石崎優仁

昨年は元旦の能登半島地震で始まりましたが、未だ復旧も遅々として進まない被災地の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。にじの会も震災対策を進めるとともに、今後能登への支援を考えていかねばと思っております。

一昨年5月に新型コロナが5類感染症に変更され3年半続いたパンデミックが一応収束しましたが、その後もインフルエンザ等の感染症が継続的に発生しています。にじの会でも昨年2回の施設内感染が起こり短期間で収束できましたが、今後も感染症対策を採りながらの事業運営が継続されると思います。

昨年は、コロナ前の運営に戻すとともに、中期計画の3つの課題に向けて取り組んだ一年でした。

事業運営面で、地域交流行事については4年ぶりの公開講座や「にじの会まつり」「にじアートまつり」の本格開催等で多くの方々に参加していただきました。利用者の社会参加についてもデイズニーランド等の人気コースも復活した一泊・日帰り旅行やスポーツ大会・クリスマス会等の行事を楽しく実施できました。

「SDGsに資する法人運営」については、CO2削減と非常時電源確保のため「大沢にじの里」の送迎車両に3台EVを導入し急速充電設備とV2Hを設置しました。また、「大沢にじの里」「にじアート」建物の窓に遮光断熱・飛散防止フィルムを貼付し、夏冬の省エネと震災時の破損防止を進めています。地域共生社会に向けては、高齢者買い物送迎支援事業「かわせみ」の7周年と実施800回記念会を6月に開催し引き続き無事故で継続しています。また三鷹市内3カ所の子ども食堂への食事提供を継続するとともに、今年1月から大沢地区の子ども食堂をハーモニーで月1回開始しています。

「利用者支援の充実」については、利用者の自己表現や意思決定の支援と社会参加の再開を進めましたが、コロナ禍で機能低下が目立ち、開所21年で高齢化が進んでいることもあり身体の抵抗力の低下で重大な疾病が発生したり、認知症の発症や進行が多くなっています。今年は高齢化対応を第一で進める必要があります。同時に「にじアートの遊悠工房」や「大沢にじの里の園芸グループ」等で利用者の強みを発揮できる活動が提供され「寄り添う支援」の充実も進んでいます。

「にじの会組織力の向上」については、まず業務効率化に向けて情報システムの活用が進んでいます。前年に導入した記録システムや情報サーバーの機能を活用して情報伝達のペーパーレス化や報告・アンケート等の直接入力化が実施できており、今年は更に有効活用を進めていくことが期待されます。他方、4月の報酬改定で重度者支援の重視に伴い増加した支援報酬額と都の居住支援特別手当等を活用して職員の処遇改善に充当し、給与・手当の大幅な改善を実施しています。今年は、この労働条件の向上により雇用の継続と入職者の増加を実現し、より働きやすい環境を作り、より充実した支援サービスを利用者の方々に提供できることを期待しています。

また今年は、役員改選時期にもあたります。法人設立以来23年間継続されてきた経営体制を、次世代に引き継ぐ時期になっています。「今年4月から3名の常務理事が就任し実務を担当する体制」が昨年秋の理事会で承認されました。それに基づく2025年度の事業計画や事業運営体制の準備が開始されております。にじの会の役員全員で、世代交代とより充実したにじの会を実現していきたいと考えておりますので、皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、今年が皆様に幸多き年になりますようお祈り申し上げます。



# 11月4日 事業所別人権研修報告

## <大沢にじの里>

大沢にじの里では11月4日の全体研修の部署別研修にて「人権意識の向上」をテーマとして、スタッフの虐待防止マニュアルチェックの資料からピックアップした項目について意見交換と問題解決のためのグループワークをしました。その後不適切な支援・行為が発生した場合の対応の説明を聞き、不適切な支援・行為が発生しない為にはどのような取り組み、意識が必要かについて話し合いの時間を持ちました。

今回も日中スタッフと運転スタッフ、事務スタッフと合同で研修に参加しました。他部署のスタッフと交流ができて、有意義な時間を過ごすことができました。



(大沢にじの里 統括主任 田中克樹)

## <にじアート>



にじアートでは11月4日に事業所別研修が実施され、14名の職員が参加しました。第1部「虐待防止」では「威圧的な態度での支援」「職員の価値観での一方的な支援」の2テーマでグループワークが行われ、「寄り添う支援の実践の再認識」「職員自身のメンタルケア」を始めとした活発な意見が交わされました。第2部では「不適切な支援・行為を発生させないための取り組み」についても多くの意見が出され、「事前の環境設定」や「スタッフ間の協力・連携」等の重要性を再度認識出来、人権擁護の意識を高めることができました。

(にじアート 統括主任 新津健朗)

## 〈ワークショップハーモニー〉

ワークショップハーモニーでは、全体研修日の11月4日(祝)に地域イベント販売があったため、12月23日(月)に人権擁護研修を実施しました。日々の支援の中で上手くいったケースや難しかったケースの事例を共有しながら、利用者の方々がより主体的・意欲的に取り組んでいただけのために、どのような支援が必要かを人権擁護の視点を持ち合わせながら意見交換をしました。日頃の製造・販売活動の中で、利用者の方々には自分のやりたい仕事(作業)ややりたくない仕事(作業)を上手く相手に伝えられる方とそうでない方がいます。我々支援スタッフとして、様々な場面で丁寧な説明や本人が理解しやすいよう場所やタイミング、時には人を変えるなどの環境作りに配慮し、利用者の方々が安心して活動できるよう支援の工夫が必要であることを共有しました。またスタッフ間でも悩みや困りごとを一人で抱えかまないよう、日頃からのコミュニケーションや気づきの意識を持ち、お互いに支え合いながら働ける職場作りを話し合う機会にもなりました。（ワークショップハーモニー 清水宏一郎）



## 女性生活支援研修の取り組み



大沢にじの里3F生活とグループホームにじの空の女性生活支援スタッフを対象に、女性生活支援研修を実施しました。

第一回目の2024年8月には「にじの会で勤務する上での悩みなど意見交換し、スタッフの親睦を深める」ことを目的に懇談会と意見交換会を行いました。

懇談会では、福祉に従事することになったきっかけや何故この仕事を続けているのか、にじの会に勤務していて嬉しかったこと・印象に残っていることなどを話しお互いを知る良い機会になりました。

意見交換会では、生活部署で勤務する上での働きやすさや、産休・育休を含めた今後のキャリアプランについて話し合いを行いました。自部署で産休・育休に入る前のスタッフと業務を共にする中での配慮や、産休に入るスタッフ当人の希望する働き方など、とてもセンシティブな内容でもあり法人に求めたいことを含め多くの意見が上がりました。また、当事者になった場合、自分はどのように働きたいか等の意見交換も行いました。女性にとってキャリアプランはライフプランに直結するものであることから、様々な意見を通してスタッフ自身のキャリアプランを考え、互いに尊重し働くことの出来る環境を考える研修内容となりました。

第二回目は、寄り添う支援とは何かを考え、それぞれの部署で抱える課題を認識し利用者支援状況を共有することで今後の支援に繋げていくことを目的とした「ケース発表」を1月に予定しています。

（女性生活支援 統括主任 中嶋みゆき）

## 第5回 にじアートまつり

1月13日水曜日に、地域交流と活動参観を目的とした「第5回 にじアートまつり」を開催しました。昨年は、新型コロナウイルスが感染法上5類となったことで、3年ぶりに実施した経緯がありましたが、今回は、放課後等デイサービスの活動（音楽）を加える形で、好天の下での開催となりました。地域ケアネットワークしんなかの各委員や近隣住民始め、利用者家族等含めた46名の方々が来場され、様々な活動に興味深げに各活動に見入っていました。



わくわく工房

活動は、わっしー工房やわくわく工房の各美術活動、工房創楽（そら）の室内運動、遊悠工房の音楽発表と、バラエティーに富んだ活動内容を通じて、来場された方々との交流を相互に楽しまれ、質問や感想を述べ合うなど、活気ある活動参観と交流の機会となりました。



工房創楽



遊悠工房



わっしー工房

また、放課後等デイサービスの音楽活動も、児童たちは元気いっばいに楽曲に合わせて身体を動かし、来場者を大いに盛り上げておりました。



放課後等デイ

販売ブースのエリアではにじアートの紹介動画が放映され、各フロアでは、各活動の様子や美術作品が多数展示されており、興味深げに来場者の方々が見入る様子がとても印象的でした。



ハーモニー販売

1Fロビーでは、前回同様ワークショップハーモニーの販売ブースを設け、「2025年にじの会カレンダー」を始め、「各種パン・豆腐・スモーク製品」等々、様々な製品を多くの方々が、お買い求め頂きました。

今後にもにじアートまつりを継続し、三鷹市新川・中原地区の社会資源として、さらに認知度が深まるよう、地域の方々との交流・ふれ合いを構築出来るようにしていきたいと思っております。



（にじアート 統括主任 新津健朗）



## ウォーク&スポーツ大会

2024年11月22日（金）第14回にじの会ウォーク&スポーツ大会を開催しました。近頃の屋外イベントでは、なかなか天候に恵まれないことも多く、日程変更で対応するなどしてきましたが、この日は雲一つない爽やかな晴天でした。秋晴れの野川公園にて、各グループでスポーツ・レクリエーションを行い、美味しいお弁当を食べながら楽しいひと時を過ごすことができました。支援専門運動では、利用者の高齢化や心身状況の変化に合わせ、イベント開催方式の検討を行っています。今後も日々の活動において、利用者の変化を捉え、心身機能の維持・向上に効果的なプログラムを実施するとともに、安全で楽しいイベントの企画を行っていききたいと思います。（支援専門運動：高橋祥亮）





2025年1月9日発行 SSKR通巻第10214号



# にじの会 クリスマスイベント

12月20日（金）各事業所においてクリスマス会を開催しました。日頃の音楽活動での取り組みをビデオ動画にて紹介し、動画を観ているなかで、曲に合わせて身体を弾ませてみたり、知っている利用者さん、スタッフを見つけては嬉しそうな表情を見せながら鑑賞していました。一年間の各工房で取り組んできた成果が感じられた動画でした。

大沢にじの里、にじアートの利用者さんは、サンタクロースからのクリスマスプレゼントもあり、サンタクロースから手渡されたプレゼントが何か早く確認したく袋を空けている方、サンタクロースに会えたことが嬉しかった方とひとり一人様々な様子を見せていました。プレゼントは気に入ってもらえましたか。一年を終えるクリスマスイベント、楽しい時間を過ごせました。（定期行事 主任 福島章）

（大沢にじの里の様子）



（にじアートでの様子）



## 三鷹市民駅伝大会

1月24日（日曜日）に三鷹駅伝に参加しました。早朝の吐く息がまだ白い中、SUBARU 体育館に利用者4名と伴走者4名が集合して、レースに向けて士気を高めました。ゼッケンを受け取り、それぞれの中継場所に向きました。スタートまでは、入念に準備運動で体を温めました。緊張のドキドキが徐々に増し、9時、スタートの号砲が鳴り一斉にたすきを持ったランナーたちが、走りだしました。接触して転倒しないように注意しながら、自分のペースでスタートです。選手も伴走者も力を合わせて走りました。タスキを受け取る中継所はランナーで溢れかえり、いまかいまかとチームメートを待ちながら、ゼッケンのアナウンスに耳を傾けていました。お互いの姿を見つけたら、手を大きく振って声を掛けました。タスキを受け取った選手は全力疾走。三鷹市内を駆け抜けました。寒い中、住宅街は早朝からたくさんの沿道の歓声が聞こえ温かい雰囲気の中、走ることが出来ました。独特の空気感は走者に力を沸かせ、走るスピードも加速します。躍動しオーバーペースで走ってしまい立ち止まることもありましたが、次走者の待つ中継所に向けて進みました。4名の選手がたすきを繋ぎ12.4キロを走り切りました。（にじの里 園芸スタッフ 長谷川靖）



## 成人を祝う会

1月10日（金）に二十二回目の成人を祝う会を行いました。2024年度は4名の方が二十歳を迎えました。皆さん新調されたスーツに袖を通して、晴々としたお姿で入場されました。所属されている工房の方々からのお祝いメッセージ動画を観て、コメントに首を大きく頷かれたり、はにかみながら画面を観たりと、日頃一緒に過ごされている方からの言葉を胸に刻んでいたことと思います。成人を迎えられた方のご家族からのコメントから20年、お子さんと一緒に歩んでこられた言葉が印象的でした。また、ご本人からは20歳への期待、抱負がご本人の言葉として聞かれて頼もしかったです。理事長が祝辞で述べた、社会人の一員として大切なこと、「自分の好きなこと、やりがいを感じることを見つける。」「自分の気持ちや意見をきちんと相手に伝える」ことを意識してこれからの日々を過ごしてください。20歳を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。（定期行事 主任 福島章）



## 2024年度 職員表彰

2024年の表彰者は以下の方々に決定しました。（敬称略）

### 1. 研究功労賞

①にじアート遊悠工房（大河原侑弥・櫻井夏代子・榎子育也）

〔理由〕音楽をベースに利用者の積極性を引き出すプログラム

②設備担当・運転（金子修・前田健一・木村高大）

〔理由〕EV化と遮光断熱・飛散防止フィルム貼付によるSDGs推進

③研修委員会（田中克樹・小木曾淳・山本悠・田島多恵子・西垣内義彦・森澤昂大・金子明理寿・日暮優菜・杉本広明・小林大生）

〔理由〕事前学習等の研修内容の改善と随時ビデオ研修の導入、報告書の開示等

### 2. 運営功労賞

①高齢化対策担当（田島多恵子・保坂啓・榎本武・高橋祥亮・横倉忍・柳原恵巳清水澄雄・染谷将希・江崎康弘・平沼明香里・小口香織・小木曾淳）

〔理由〕高齢化進行の中で、積極的な機能低下防止活動、栄養マネジメント導入による体力維持向上、要介護利用者の施設移りの準備等に努力

②買物送迎支援事業（飯野龍二・木村高大・綱本誠・曾根隆・鰐田拓磨）

〔理由〕「かわせみ」7周年と800回記念会を開催し、地域貢献事業を継続実施中

③定期行事担当（佐藤智観・福島章・板倉美保・羽石敏・尾形繰美・藤原智美・佐藤まゆみ・小野瑛介）

〔理由〕第19回にじの会まつりを職員・利用者中心に切り替え、成功裏に開催できた。

④運動専門スタッフ（榎本武・高橋祥亮）

〔理由〕運動イベントの適切な実施と共に、他部署（生活・日中）への積極的支援協力

⑤大沢にじの里園芸班（長谷川靖・片岡紘二・大倉生・瀧上未桜・小林大生）

〔理由〕支援の視点が広がり活動内容の多角化と質の向上が実現

### 3. 勤続表彰

①優秀勤続20年賞

片岡紘二・花井瑞明

②優秀勤続15年賞

清水澄雄・中嶋みゆき・山下典孝・横倉忍・南直志・佐藤智観・田島多恵子・諏訪拓・望月由美・佐藤美絵

③優秀勤続10年賞

望月喜雄・黄檗文博・白井絵子・保坂啓・小野瑛介

④優秀勤続5年賞

宮島麻弥・平松慎吾・吉田弘実・石川由利子・土方孝行・大野雄輝・小八重さとみ・江崎康弘・岡崎大樹・池山庄平・武捨清奈恵・藤井雅貴・山本光一郎・大島由起子・内山久子



『にじの会だより92号』 定価 50円

発行所：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷102号

TEL:03-6277-9611 FAX:03-6277-9555

編集人：社会福祉法人にじの会

〒181-0015 東京都三鷹市大沢1-6-3 TEL:0422-39-2411 FAX:0422-39-2412